

平成19年度実施事業 事業評価シート

事業名:	リサイクルプラザ運営事業	4-8
・運営の方法(1:直営、2:民間委託、3:補助、4:その他)	複数回答可	1 2
・事務の分類(1:自治事務、2:法定受託事務)		1

担当部課	市民生活部リサイクルプラザ	直通電話	64 - 3196
担当部長	川又和雄	担当課長	相澤幸一
		担当者	福田輝美

1 事業のアウトライン			
(1)事業概要及び交付金額等の積算根拠	回収された資源物(ビン・缶・PETボトル)を分別し再商品化をする。		
(2)事業開始年度	平成12年度	(3)事業終了年度	未定
(4)総合計画での事業体系	テーマ等	4.豊かな自然を守り育てる	
	施策項目(大)	(3)資源循環型社会の実現	
	施策項目(小)	資源環境型ごみ処理体制の確立	
	施策コード	40302	

2 事業の内容	
(1)事業の目的 何のために	容器包装リサイクル法に基づく資源物の有効利用とリサイクルを進める。
(2)目指す成果 何をどんな状態にする(何がどんな状態になる)ように	資源物(ビン・缶・PETボトル)を圧縮・種類分別し再商品化を図る。また、市民に対しごみの減量化と資源循環型の意識啓蒙を図る。
(3)事業の方法 どんな手段を講じるのか	選別ラインに資源物を投入し、手選別・機械選別を行う。また、各種講座を通じてリサイクルを体験してもらう。
(4)19年度に改善した事項、重点的に取り組んだ事項	
(5)事業の背景・社会状況・他の類似事業など	ごみ減量化として資源のリサイクルを進めるため、多くの自治体で行っている。
(6)事業の立案や実施における協働の視点	容器包装リサイクル法に基づく一般廃棄物の処理を社団法人石狩市シルバー人材センターに委託。

3 事業に投入した行政資源				
区分	H17	H18	H19	H20予算
(1)直接事業費(千円)	35,942	33,437	30,672	33,300
(2)その他の間接経費(千円)	0	0	0	0
(3)従事正職員の人件費(千円)	12,948	12,428	13,457	
総事業費((1)~(3)の合計:千円)	48,890	45,865	44,129	
事務に従事した正職員延べ人数	1.50	1.50	1.50	

4 交付団体の予算・決算 (単位:千円・%)											
収	区分	H17	H18	H19	H20予算	支	区分	H17	H18	H19	H20予算
	市補助金等(A)										
入	計(B)	0	0	0	0	出	計	0	0	0	0
	(A/B)										

5 事業活動の結果 (単位:千円・%)					
活動指標名		H17	H18	H19	H20
資源物回収量(トン)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	1,030	1,136	1,202	
	達成率	-	-	-	
講座開催回数(回)	目標値	39	26	25	41
	実績値	39	26	25	
	達成率	100.0	100.0	100.0	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

6 事業の成果		(単位:千円・%)			
成果指標名		H17	H18	H19	H20
資源物の再商品化量(トン)	目標値	未設定	未設定	未設定	未設定
	実績値	929	1,026	1,137	
	達成率	-	-	-	
講座参加人数(人)(目標は定員数)	目標値	275	195	190	250
	実績値	177	134	122	
	達成率	64.4	68.7	64.2	
	目標値				
	実績値				
	達成率				

7 事業の観点別評価		担当課長が評価します。	
(1) 必要性		(4) 有効性	
ア 市民ニーズ	1 大きい	ア 施策との関連	1 密接な関連がある
社会経済情勢の変化に対する市民ニーズはどうか	2 普通	事業の成果と施策の成果とに関連があるか	2 関連がある
	3 小さい		3 関連はほとんどない
イ 市の関与	1 行政にしかできない	イ 成果	1 すべて達成している
その事業に市が関与する必要があるかどうか	2 民間等でもできる	事業の成果は目標を達成しているか	2 一部達成している
	3 民間等でやるべき		3 達成していない
(2) 効率性		ウ 事業内容	1 極めて妥当
ア コスト削減	1 不可能である	目指す成果の実現を図る上で、今の事業内容は適当か	2 一定の妥当性あり
コスト削減は可能か	2 難しい		3 妥当性が低い
	3 可能である	(1)~(4)の評価ポイント合計	
(3) 公平性		総合評価の参考にしてください。	
ア 受益者負担	1 不可能である	7~11	A or B
さらなる受益者負担は可能か	2 難しい	12~15	B or C
	3 可能である	16~21	D or E
		11	

8 課長評価		担当課長が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		資源物(カン・PETボトル)回収量が増加しているなかで、事故防止に努め、業務も遅滞することなく適切に行っている。	
A	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2) 今後の方向性・課題		今後も、より効率的な運営に努めていく。	
(3) 平成21年度の方向性			
*:担当課長		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		*
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		
新たに廃布を活用した講座を年10回程度開催予定。			

↓ ここまで担当課長が記載した上で、パブリックコメントを実施し、市民意見を募集します。

9 課長評価に対する市民意見	

10 部長(市長)評価		課長評価に対する市民意見を踏まえて、部長職(もしくは市長)が評価します。	
(1) 平成19年度事業の総合評価		資源物の回収、処理は、増加傾向を示しており順調であるが、リサイクル講座参加者数が伸び悩んでいる。	
B	評点の意味 (A:極めて良好、B:良好、C:可も不可もない、D:問題がある、E:大きな問題がある)		
(2) 今後の方向性・課題		リサイクル講座の内容を工夫し参加者数の増加を図る。	
(3) 平成21年度の方向性			
:担当部長(もしくは市長)		事業内容	
		現状維持	一部見直し 大幅見直し
事業規模	拡大方向		
	現状維持		
	縮小方向		
	統合		
	休・廃止		
講座内容の見直しを図る。			